

天文班新聞

編集者

天文班

一学年

8月の夜空を彩る

ペルセウス座流星群

8月は、天体観測に適した時期です。夜空には「夏の大三角」が高く昇り空の暗い場所では天の川も肉眼で見ることができます。さらに、毎年8月中旬には三大流星群の一つである「ペルセウス座流星群」が活動のピークを迎えます。この流星群は、地球が彗星の残した細かな塵の帯を通過することによって発生し、大気中で塵が約60キロメートル毎秒という高速で燃え尽きる際に流れ星として観測されます。流れ星は放射点と呼ばれる1点から飛び出るように見えますが、実際には空の広い範囲に現れるため、空全体を見渡すように観察するのがポイントです。夏休みには夜更かしをする機会も増えますが、たまにはスマートフォンから目を離し、宇宙のスケールを感じながら夜空を見上げてみてはいかがでしょうか。何百万年もの時間をかけて続く天体の営みを、身近に感じられる貴重な機会になるはずです。



画像①

夏の夜空を彩る

みずがめ座 δ （デルタ）流星群

夏の風物詩の1つである「みずがめ座 δ （デルタ）南流星群」が活動のピークを迎えます。流星群は、地球が彗星の残した細かなちりの帯を通過することで発生し、大気との摩擦によって流れ星として輝く現象です。この流星群は毎年7月中旬から8月下旬に活動し、7月31日ごろに最も多くの流星が見られる「極大」を迎えます。観測に適した時間帯は夜遅くから明け方で、街明かりの少ない場所ほど観測しやすいです。流星は比較的ゆっくり流れるのが特徴で、条件が良ければ1時間で10〜20個ほどの流れ星を観測できるかもしれません。



画像②

流れ星は「みずがめ座」の方向から飛び出してくるよう見えますが、実際には空全体に現れるため、特定の星空を探す必要はありません。広く夜空を観察するのがおすすめです。今年はやや月明かりの影響を受けるものの、明るい流れ星であれば観測できる可能性があります。夏休みの思い出づくりとして夜空を見上げ、宇宙の神秘を感じてみてはいかがでしょうか。